1　平将門に関する伝説(1)

次に玉川集落では「鶏や鶏卵を集落に入れない、飼わない、食べない」という風習が昭和二十年までであった。この禁忌のもとは男神、女神と言われる二神山の頂きに一つがいの白鶏が光明の珠をくわえて飛んできた。伊邪那美命、伊邪那岐命、柱の仮の姿だったと分かり、その為鶏を神聖なものとして食べないという風習が生まれたという。また別にインドから神が白鶏と化して飛んで来た。そのため鶏を崇め祀り、鶏を食べず、またその卵を食べないと言われて来た。

次に生保内の平家落人伝承に移ってみたい。生保内では中生保内にある姫塚が平将門の娘滝夜叉姫の墳墓だとの言伝えが残されている。ここには姫塚の他、数多くの物語が伝えられている。

姫塚の大きさは高さ約三メートル、直径一二メートル、周囲三六メートルほどのやや円形の古墳であるが、地域では将門の娘の墳墓として信じられて来ている。古墳の東南には小丘陵があり、ここを地蔵長根と呼んでいる。将門の遺児良門、滝夜叉姫の二人が父の仇を討とうとして果たさず、相馬ヶ原の野馬追の群れの中に潜み隠れて逃れたと伝えられる。滝夜叉姫が家来に守られてこの中生保内まで逃れ、尼となって如蔵尼と名乗り、この小山の上の台地に庵を結び住んだと伝えられる。この姫の住んだという場所がすなわち地蔵長根だという伝えである。このすぐ下の湿地帯が地蔵谷地と呼ばれている。

また別に、姫には五人の子供があり、その一人が中生保内に住み田口家の祖になったと伝えられてもいる。次の一人は田沢の祖になり、また一人は潟村を開拓したと伝えられている。その他、角館に移り某家の祖になった説、刈和野を伐り開いた説などが残されているが、伝承されているものと、中生保内田口茂勝家に伝えられている田口茂兵衛家文書の内容と混同している部分が多く、伝承そのものに、この田口家文書の内容が紛れ込んだように考えられる。田口家文書は先祖について、滝夜叉姫のことには触れず、五人の兄弟がいて、それぞれの村を伐り開いたとなっている。そしてこれには伝承にある角館に移った説や刈和野に移った説などは記されておらず、代わりに、雫石と生保内の宿を開いたとなっている。また延命地蔵尊は自分の家の氏神だったが、今は中生保内全部の産土神になったとだけ記されている。



滝夜叉姫を祀ったと伝えられる姫塚